

《履修上の留意事項》面接授業と遠隔授業の併用実施

《担当者名》○福岡 麻紀 大友 芳恵

【概 要】

本科目は、ソーシャルワークにおける相談援助の理論と方法（人と環境のとらえ方と相互の関係性、援助関係の原則、相談援助の過程、面接技術、多様な実践モデル）を学び、その知識を具体的な事例の理解に応用できることを目指す。

【学習目標】

- 1 相談援助の展開過程や相談援助に必要な知識と技術について説明ができ、具体的な事例に応用できる。
- 2 相談援助における人と環境との関係性に関する理論について説明できる。
- 3 相談援助の実践モデル・実践アプローチを理解し、事例に応用できる。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1	オリエンテーション	相談援助の理論と方法を学ぶ目的を理解する。 相談援助とは何かを説明できる。	福岡
2	ソーシャルワークにおける援助関係1	自己覚知について説明できる。 ミクロ・メゾ・マクロの実践領域について説明・例示ができる。	福岡
3	ソーシャルワークにおける援助関係2	バイステックの7原則を理解し、個々の原則について説明できる。	福岡
4	相談援助の展開過程1	インテークの意味と目的、インテーク面接の留意点について説明できる。 主訴とニーズの関係性について理解する。	福岡
5	相談援助の展開過程2	アセスメント① アセスメントの定義と目的、内容、方法について説明できる。 アセスメントで収集される情報について説明できる（バイオサイコソーシャルモデル）。	福岡
6	相談援助の展開過程3	アセスメント② アセスメントで収集される情報について説明できる（統合的アセスメント枠組み）。 アセスメントで得られた情報の整理法を説明できる（マッピング技法）。	福岡
7	相談援助の展開過程4	支援目標の種類と設定方法を説明できる。 プランニングの目的、内容を説明できる。	福岡
8	相談援助の展開過程5	介入のターゲット、方法を説明できる。 モニタリングの目的、対象、方法を説明できる。 エバリュエーションの目的、方法を説明できる。 終結の条件、方法を説明できる。 相談援助の展開過程における各段階を列挙し、個々の内容を説明できる。	福岡
9	ソーシャルワークの構造と機能	ソーシャルワークにおける構造と機能について説明できる。	大友
10	ソーシャルワークにおける環境への視点	ソーシャルワークにおける、システム理論以降の人と環境のとらえ方と交互作用について説明できる。	大友
11	援助における社会資源の活用	社会資源の構成要素、分類、内容について説明できる。 事例において適切な社会資源を発見することができる。	福岡
12	国際ソーシャルワークの実践	海外におけるソーシャルワークの実践を理解する。	福岡

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
			尾形多佳士(特別講師)
13	ソーシャルワークの記録技法	ソーシャルワーク記録の定義・目的・分類・様式等の基礎知識を習得する。 記録に使用される文体を習得する。	福岡
14	ソーシャルワークの面接技術	面接の目的と構造、形態を説明できる。 面接の基本技術（マイクロカウンセリング）の各項目について説明できる。 実際の面接場面において使用されている面接技法（特に焦点化・焦点の移動）を把握し説明できる。	福岡
15	まとめ	相談援助における理論と方法のまとめ。	福岡
16	ソーシャルワーク実践モデルの系譜	ソーシャルワーク実践モデルの系譜について理解する。	福岡
17	実践モデルとアプローチ1	治療モデル、生活モデル、ストレングスモデルについての基本事項を説明できる。 各モデルを事例に当てはめて考えることができる。	福岡
18	実践モデルとアプローチ2	心理社会的アプローチの基本事項（基盤理論、支援展開、適応対象、キーワード）を説明できる。 心理社会的アプローチを用いて事例を解説できる。	福岡
19	実践モデルとアプローチ3	機能的アプローチの基本事項（基盤理論、支援展開、適応対象、キーワード）を説明できる。 機能的アプローチを用いて事例を解説できる。	福岡
20	実践モデルとアプローチ4	問題解決アプローチの基本事項（基盤理論、支援展開、適応対象、キーワード）を説明できる 問題解決アプローチを用いて事例を解説できる	福岡
21	実践モデルとアプローチ5	課題中心アプローチの基本事項（基盤理論、支援展開、適応対象、キーワード）を説明できる。 課題中心アプローチを用いて事例を解説できる。	福岡
22	実践モデルとアプローチ6	危機介入アプローチの基本事項（基盤理論、支援展開、適応対象、キーワード）を説明できる。 危機介入アプローチを用いて事例を解説できる。	福岡
23	実践モデルとアプローチ7	行動変容・認知行動アプローチの基本事項（基盤理論、支援展開、適応対象、キーワード）を説明できる。 行動変容・認知行動アプローチを用いて事例を解説できる。	大友
24	実践モデルとアプローチ8	エンパワメントアプローチの基本事項（基盤理論、支援展開、適応対象、キーワード）を説明できる。 エンパワメントアプローチを用いて事例を解説できる。	大友
25	実践モデルとアプローチ9	ナラティブアプローチの基本事項（基盤理論、支援展開、適応対象、キーワード）を説明できる。 ナラティブアプローチを用いて事例を解説できる。	大友
26	実践モデルとアプローチ10	認知アプローチの基本事項（基盤理論、支援展開、適応対象、キーワード）を説明できる。 認知アプローチを用いて事例を解説できる。	大友
27	実践モデルとアプローチ11	実存主義アプローチの基本事項（基盤理論、支援展開、適応対象、キーワード）を説明できる。 実存主義アプローチを用いて事例を解説できる。	大友
28	実践モデルとアプローチ12	フェミニストアプローチの基本事項（基盤理論、支援展開、適応対象、キーワード）を説明できる。フェミニストアプローチを用いて事例を解説できる。	大友
29	実践モデルとアプローチ13	解決志向アプローチの基本事項（基盤理論、支援展開、適応対象、キーワード）を説明できる。 解決志向アプローチを用いて事例を解説できる。	福岡

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
30	実践モデル・アプローチの活用における課題	実践モデル・アプローチ活用の現状と課題説明できる。	福岡

【評価方法】

レポート50%、定期試験50%

【備考】

教科書：社会福祉養成講座編集委員会編集「新・社会福祉士養成講座『相談援助の理論と方法Ⅰ(第3版)』『相談援助の理論と方法Ⅱ(第3版)』」中央法規 2017

参考書：尾崎新他訳『ケースワークの原則』（2006）誠信書房
久保紘章・副田あけみ編著『ソーシャルワークの実践モデル』（2005）川島書店
他、講義内で紹介

その他：この科目は、社会福祉士国家試験受験資格取得のための「相談援助の理論と方法」に該当する。また、精神保健福祉士国家試験受験資格所得のための「精神保健福祉相談援助の基盤（基礎）」に該当する。教職課程（福祉）では、教科に関する科目の「社会福祉援助技術」に該当する。

【学習の準備】

- ・予習として、シラバスに準じて事前に教科書を読んでおくこと。分からない語句については用語辞典等を用いて事前に調べること。（80分）
- ・復習として、授業後は毎回要点整理を行い、分からない点については自分で調べるとともに、次回の授業までに担当教員に確認すること。（80分）

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP2,1,3

【実務経験】

福岡麻紀（社会福祉士）、大友芳恵（社会福祉士）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関、社会福祉法人での実務経験を活かし、相談援助の展開過程、個別の支援における専門的援助関係の構築、多様な実践モデルとアプローチ、またその他相談援助において求められる具体的な実践について講義する。